

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①「問題解決学習、協働学習、振り返り活動」をキーワードに授業研究会を実施する。 ②基礎学力の定着を目指し、算数科の「取り出し・入り込み」指導の充実を図る。 ③学校図書館の積極的な活用を促進し、読書活動の充実を図る。	①「自分の成長を確かめながら意欲的に学び続ける子の育成～アクティブラーニングの視点から取り組む社会科・生活科の授業づくり～」というテーマの基に、単元づくり、集団づくり、自分づくりという視点で授業改善を図った。②取り出し・入り込み授業により、個に応じた支援をすることができた。③子どもたちの読書の量が増加した。	B	確かな学力	①「問題解決学習、協働学習、振り返り活動」をキーワードに授業研究会を実施する。 ②基礎学力の定着を目指し、算数科の「取り出し・入り込み」指導の充実を図る。 ③学校図書館の積極的な活用を促進し、読書活動の充実を図る。	①「自分の成長を確かめながら意欲的に学び続ける子の育成～主体的・対話的で深い学びの視点から取り組む社会科・生活科の授業づくり～」をテーマに授業改善を図った。②個に応じた支援をすることができた。③学校図書との連携から読むだけでなく調べるという図書機能の充実を取り入れた。	B	確かな学力	①「問題解決学習、協働学習、振り返り活動」をキーワードに授業研究会を実施する。 ②基礎学力の定着を目指し、算数科の「取り出し・入り込み」指導の充実を図る。 ③学校図書館の積極的な活用を促進し、読書活動の充実を図る。		
豊かな心	①児童の主体的な活動を通した「あいさつ運動」「黙働活動」の強化を図る。 ②たてわり活動の充実(たてわり給食、たてわりハイキング)を図る。 ③交流活動の充実(ケアプラザとの交流会、ふれあい給食会、近隣保育園の交流会)を図る。④「道徳の時間」の充実を図る。	①あいさつ運動、黙働活動が学校全体でできるようになってきた。②たてわり活動では、高学年を中心に子どもたちで計画を立てて、異学年との交流を図ることができた。③ふれあい給食、幼保小交流で、地域の方と温かな交流をすることができた。④道徳の時間の研修を行い、各クラスの授業の充実を図った。	B	豊かな心	①児童の主体的な活動を通した「あいさつ運動」「黙働活動」の強化を図る。 ②たてわり活動の充実(たてわり給食、たてわりハイキング)を図る。 ③交流活動の充実(ケアプラザとの交流会、ふれあい給食会、近隣保育園の交流会)を図る。④「道徳の時間」の研修を行い、授業実践の充実を図った。	①あいさつ運動、黙働活動が学校全体に浸透してきた。②たてわり活動では、高学年を中心に子どもたちで計画を立てて、異学年との交流を図ることができた。③ふれあい給食、幼保小交流で、地域の方と温かな交流をすることができた。④道徳の時間の研修を行い、授業実践の充実を図った。	B	豊かな心	①児童の主体的な活動を通した「あいさつ運動」「黙働活動」の強化を図る。 ②たてわり活動の充実(たてわり給食、たてわりハイキング)を図る。 ③交流活動の充実(ケアプラザとの交流会、ふれあい給食会、近隣保育園の交流会)を図る。④「道徳の時間」の充実を図る。		
健やかな体	①ロング昼休み(30分間)を設定するなど積極的 に外で遊べる体制を確立する。 ②長縄集会等を活用して、年間を通した体づくりに取り組む。 ③学校保健委員会等を活用して、健康・安全に留意した生活に向けた取組を児童主体で推進する。	①ロング昼休みには、全校が外に出て、外遊びをし、体力の向上を図った。②長縄集会、マラソン大会等により、体力の向上を図った。③学校保健委員会では、「自分の体を大切にしよう～廊下の歩き方を考えよう～」というテーマで、廊下を歩くことが大切であるという意識を高めた。	B	健やかな体	①ロング昼休み(30分間)を設定するなど積極的 に外で遊べる体制を確立する。 ②長縄集会等を活用して、年間を通した体づくりに取り組む。 ③学校保健委員会等を活用して、健康・安全に留意した生活に向けた取組を児童主体で推進する。	①ロング昼休みでは、校庭と体育館も活用し、安全に活動できるようにした。②長縄集会、マラソン大会等により、体力の向上を図った。③学校保健委員会では、「自分の体を大切にしよう～どんな時も山小ウォークができるようにしよう～」をテーマに、安全な歩行について具体的に考えた。	B	健やかな体	①ロング昼休み(30分間)を設定するなど積極的 に外で遊べる体制を確立する。 ②長縄集会等を活用して、年間を通した体づくりに取り組む。 ③学校保健委員会等を活用して、健康・安全に留意した生活に向けた取組を児童主体で推進する。		
児童生徒指導	①いじめ防止基本対策方針の見直しを通して、事態により迅速に対応する。 ②年間3回「山元小のきまり」に基づいた評価を行い、指導の改善を図る。 ③特別活動を効果的に活用した「あいさつ運動」「黙働」の徹底。	①「学校いじめ防止対策委員会」を中心に、情報を共有し、迅速かつ組織的に継続的に事態に対応した。また、児童へのアンケートの実施等を通して、早期発見に努めた。②長期休業の前に、山元小のきまりの見直しを行った。③運営委員会を中心に「あいさつ運動」「黙働」に加え、「ふわふわ言葉」を増やす取り組みを行った。	B	児童生徒指導	①いじめ防止基本対策方針の見直しを通して、事態により迅速に対応する。 ②年間3回「山元小のきまり」に基づいた評価を行い、指導の改善を図る。 ③特別活動を効果的に活用した「あいさつ運動」「黙働」の徹底。	①「学校いじめ防止対策委員会」を中心に、情報を共有し、迅速・組織的・継続的に対応した。また、児童へのアンケートの実施等を通して、早期発見に努めた。②長期休業の前に、山元小のきまりの見直しを行った。③運営委員会による朝のあいさつ運動を実施し、児童の主体的な活動を取り入れた。	B	b1	①いじめ防止基本対策方針の見直しを通して、事態により迅速に対応する。 ②年間3回「山元小のきまり」に基づいた評価を行い、指導の改善を図る。 ③特別活動を効果的に活用した「あいさつ運動」「黙働」の徹底。		
地域連携	①年2回、学校経営についての意見を保護者から聴取し回答する。回答内容は文書及びホームページで広く地域にも公開する。 ②農園ボランティア、図書ボランティアを地域から広く募り、教育活動へ参画を促進する。	①年2回、保護者にアンケートを取り、学校運営に生かした。アンケート結果や学校行事について、ホームページで広く地域に公開した。②農園ボランティア、図書ボランティアを地域から募り、農園活動、図書活動の促進を図った。また、子どもたちの交流も充実させ、収穫祭や図書ボランティアありき集会を行った。	A	地域連携	①年2回、学校経営についての意見を保護者から聴取し回答する。回答内容は文書及びホームページで広く地域にも公開する。 ②農園ボランティア、図書ボランティアを地域から広く募り、教育活動へ参画を促進する。	①年2回、保護者にアンケートを取り、学校運営に生かした。アンケート結果や学校行事について、ホームページで広く地域に公開した。②農園ボランティア、図書ボランティアを地域から募り、農園活動、図書活動の促進を図った。また、収穫祭や図書ボランティアありき集会を行った。	A	b2	①年2回、学校経営についての意見を保護者から聴取し回答する。回答内容は文書及びホームページで広く地域にも公開する。 ②農園ボランティア、図書ボランティアを地域から広く募り、教育活動へ参画を促進する。		
特別支援教育	①各家庭との連携を深め、児童に実態に即した取り出し・入り込み指導の充実を図る ②一般学級と個別支援学級との相互交流を一層促進し、インクルーシブ教育の理念に基づいた教育活動の充実を図る	①取り出し・入り込みの指導で個に応じた指導を行った。また、取り出し・入り込み指導の見直しを行い、一人ひとりの児童の実態に合わせて時間数を増減させた。②一人ひとりに応じた交流のあり方を検討した。また、個別支援学級の学習発表会の取組を全校に発表した。	B	特別支援教育	①各家庭との連携を深め、児童に実態に即した取り出し・入り込み指導の充実を図る ②一般学級と個別支援学級との相互交流を一層促進し、インクルーシブ教育の理念に基づいた教育活動の充実を図る	①取り出し・入り込みの指導で個に応じた指導を行った。また、取り出し・入り込み指導の見直しを行い、一人ひとりの児童の実態に合わせて時間数を増減させた。②一人ひとりに応じた交流のあり方を検討した。また、個別支援学級の学習発表会の取組を全校に報告した。	B	b3	①各家庭との連携を深め、児童に実態に即した取り出し・入り込み指導の充実を図る ②一般学級と個別支援学級との相互交流を一層促進し、インクルーシブ教育の理念に基づいた教育活動の充実を図る		
								b4			
				いじめへの対応	①毎月1回定期的に「いじめ防止対策委員会」を開催するとともに、毎朝の主幹会において児童指導報告を行い、いじめ発生の芽を把握し未然防止に努める。 ②誰もが安心して参加して、自尊感情が高まる授業づくり・集団づくりに取り組む。	①毎朝、児童指導報告を行うことで、いじめ案件の想定される一人一人の児童の心の動きや環境の変化を、職員で共有することができた。②授業研究と関連しながら、クラスで学習をともにつくりあげていくための集団性の伸長を図ることができた。	B	いじめへの対応	①毎月1回定期的に「いじめ防止対策委員会」を開催するとともに、毎朝の主幹会において児童指導報告を行い、いじめ発生の芽を把握し未然防止に努める。 ②誰もが安心して参加して、自尊感情が高まる授業づくり・集団づくりに取り組む。		
人材育成・組織運営	①学級担任は年間2回以上、専科は1回以上の授業公開を通した研修を行う ②毎朝主幹ミーティングを開催し、当面の課題やその対応について確認する。 ③毎月1回メンター研修を実施する。メンバーの主体性が確保された運営を図る。	①授業公開を通して、教材研究の充実を図り、授業改善につなげることができた。②主幹ミーティングで情報交換することで、効率的に組織運営することができた。③月1回メンター研修を行い、メンバーの課題に合った研修を行った。地域探検や他のクラスの掲示を見学し、学級経営や学習指導に生かすことができた。	A	人材育成・組織運営	①学級担任は年間2回以上、専科は1回以上の授業公開を通した研修を行う ②毎朝主幹ミーティングを開催し、当面の課題やその対応について確認する。 ③毎月1回メンター研修を実施する。メンバーの主体性が確保された運営を図る。	①授業公開を通して、教材研究の充実を図り、授業改善につなげることができた。②主幹ミーティングで情報交換することで、効率的に組織運営することができた。③月1回メンター研修を行い、地域探検や他のクラスの掲示を見学し、学級経営や学習指導に生かすことができた。	A	人材育成・組織運営	①学級担任は年間2回以上、専科は1回以上の授業公開を通した研修を行う ②毎朝主幹ミーティングを開催し、当面の課題やその対応について確認する。 ③毎月1回メンター研修を実施する。メンバーの主体性が確保された運営を図る。		
ブロック内相互評価後の気付き	・児童・生徒指導の協働、合同研修会の開催、訪問授業を通し、9年間を見通した指導に努めた。 ・小中合同研修では、この地域の特性として自尊感情の育成を大切に、それぞれのブロックのテーマ・課題を確認し合った。 ・訪問授業では、それぞれの学校の子どもの様子や授業の在り方を見たり、情報交換をしたりし、子どもの指導に役立てることができた。仲尾台中学校と、仲尾台中の吹奏楽部と山元小全児童によるジョイントコンサートも実施し、卒業生が活躍する姿や山元小の音楽クラブが演奏を披露することができた。			ブロック内相互評価後の気付き	・平塚中学校、中尾台中学校の両校と一緒に音楽会を行ったり、互いに授業参観を行ったりする中で、子どもの様子を共有することができた。 ・本校の児童が、授業に対して前向きに取り組むことができていると評価された。児童同士が互いに聞き合う姿が評価された。 ・中学校とは9年間で育てる子ども像について意見交換をしつつ、指針作りを進めていこうと考えている。			ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価	・多くの子どもたちが楽しく学校に通い、落ち着いて生活している様子が伺える。 ・地域での子どもたちの挨拶については個人差があるという意見を受け、挨拶については、学校でも引き続き、指導を重ねていく考えを確認した。 ・山元小の特色である農園の活動は、子どもたちにとって貴重な経験となっている。 ・引き続き、地域行事や登下校時の子どもたちを温かく見守ると同時に、地域に根ざした教育ができるよう期待している。			学校関係者評価	・多くの子どもたちが落ち着いた態度で学校生活を送ることができている。 ・情報公開を積極的に行い、透明性の高い状態を維持できている。 ・年間を通して野菜の生産や、季節ごとの収穫祭など、継続的な農園活動が山元小学校の特色として定着しており、特色ある学校づくりにもつながっている。			学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り	・児童の「考える力」の育成や学習意欲の向上に加え、思いやりのある温かな集団が育ってきた。保護者や地域からも同様の評価を受けている。 ・特別な支援が必要な児童には、学習面、心理面から個に応じた支援をした。専任を中心とした組織対応、メンターチームの研修も成果が出てきている。 ・挨拶運動、黙働については、引き続き指導を重ねていく方針である。			学校経営中期取組目標振り返り	・学年間や学年ブロック間での教材研究や児童の見取りについて意見交換を行い、授業改善、授業力向上を年間を通して行うことができた。 ・児童支援専任教諭を中心に、各職員の児童の見取りや気になる様子、また地域・家庭の情報などを総括的に共有し、その上で即時性のある対応を図ることができた。 ・地域の人材や特色ある取り組みを生活科・社会科の学習を中心に、積極的に取り入れていくことができた。			学校経営中期取組目標振り返り			